

准校長から4月号（平成27年）

校舎の窓から見える木々の緑や春の風に清々しさを感じます。学校が始まり、1か月がたちました。この間の学校の様子などをお知らせしたいと思います。

4月当初から、数人の教員と登校時と下校時にあいさつで校門に立っています。4月の初めの頃は、生徒会の生徒たちとも、あいさつ運動をしました。「こんにちは」のあいさつの声に、照れくさいかから小さな声や顔くだけの人もいましたが、4月の下旬くらいから、生徒のみなさんから先に大きな声であいさつが聞けるようになりました。こうして立っていると生徒の皆の顔はほぼ覚ええました。来月くらいから、名前を呼びながら、「〇〇さん、こんにちは」「校長先生、こんにちは」などとあいさつを交わしたいと思います。

成城高校の定時制は、こんな元気な声で始まります。あいさつに立つ教員も、多い時では9人もいました。少ない時でも4人はいます。こうして教員が一人ひとりの生徒とのコミュニケーションを交わすことから学校がスタートしています。

授業風景も見ることができました。多くて20人ちょっと、だいたい10人前後の少人数で行っています。私は定時制高校へ着任するまでは、授業中の雰囲気について少し案ずるところがありましたが、この成城高校ではそんな心配はまったく杞憂に終わりました。授業中は、皆、筆記用具を動かしていたり、実習などに集中しています。窓の外は夜で暗いですが、勉強を頑張っている生徒たちを照らす教室の明かりに温かみを感じます。こんな教室で、先生の説明を集中して聞いている生徒たちを見て安心をしたのが、私の4月の一番の良い経験でした。きっと、成長してくれると確信しました。

残念なこともありました。この学校の周囲の道路はほとんどが一方通行となっています。交通マナーを守っていない生徒がいるとお叱りの電話をいただきました。生徒指導の先生を中心に学校の周囲で立ち番もしています。毎日、ゴミ拾いもしている教員もいます。これからも生徒への指導をしていきたいと思っていますし、生徒諸君と一緒に何か活動もしていきたいと考えています。

帰りにも校門であいさつをしています。元気に「さようなら」と帰っていく生徒たちを見ると、みんな素晴らしい可能性を持った生徒たちだと思います。

校門から校舎を見上げると、夜の中に校舎や教室の窓の灯が輝いて見えます。こうして、思い出が一つひとつ生徒にも、私たちにも刻まれていくのでしょう。

最後まで、お読みいただきましてありがとうございました。

成城高等学校 定時制の課程 准校長 富田公一（とだこういち）